

都道府県・指定都市番号	21	都道府県・指定都市名	岐阜県	研究課題番号・校種名	3 (5) 小中
				領域名	校種間連携
研究課題	学校全体で取り組む研究課題 (5) 校種間の連携による教育課程の編成、指導方法等の工夫改善に関する実践研究				
学校名 (園児・児童・生徒数)	かいづしりつたかす 海津市立高須小学校 (337 人) よしさと 海津市立吉里小学校 (81 人) ひがしえ 海津市立東江小学校 (70 人) おおえ 海津市立大江小学校 (69 人) にしえ 海津市立西江小学校 (88 人) にっしん 海津市立日新中学校 (373 人)			学校・地域の特色及び実態等 ・基本的な学習習慣が定着し、落ち着いて学習に取り組むことのできる児童生徒が多い。 ・保護者の学校行事に対する関心は高く、学校行事や授業参観には多くの保護者が参加する。	
所在地 (電話番号)	海津市立日新中学校：岐阜県海津市海津町高須 531-1 (0584-53-0040)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL					
研究のキーワード	小中連携 主体的に取り組む児童生徒 楽しいと感じる授業 授業スタンダード 学びの変容				
研究結果のポイント	○小中各校の授業スタンダードを基に『日新中学校区の授業はこれだ!!』を作成するに当たって、『9年間の学びの変容』が明らかになり、共通の方向性をもって授業を実践することができた。 ○全ての学校で「よさ見つけ」を継続することで、「聞く」「話す」姿に認め合いによる高まりが見られた。 ○児童生徒・教師の意識調査結果から、現在の授業のよさや改善点が明らかになり、日新中学校区における授業スタンダードとして目指す授業像が明確になった。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

児童生徒が主体的に取り組むことができる学習指導の在り方

(2) 研究主題設定の理由

日新中学校区では、5つの小学校から1つの中学校に進学する。5つの小学校のうち4校は、単学級の小規模校である。

海津市には、初任者、1校目完了者、常勤講師など、3年以内で転出する教員が多い。そのため、全ての教師が同じ方向性のもとに指導を行っていけるような仕組みをつくる必要がある。

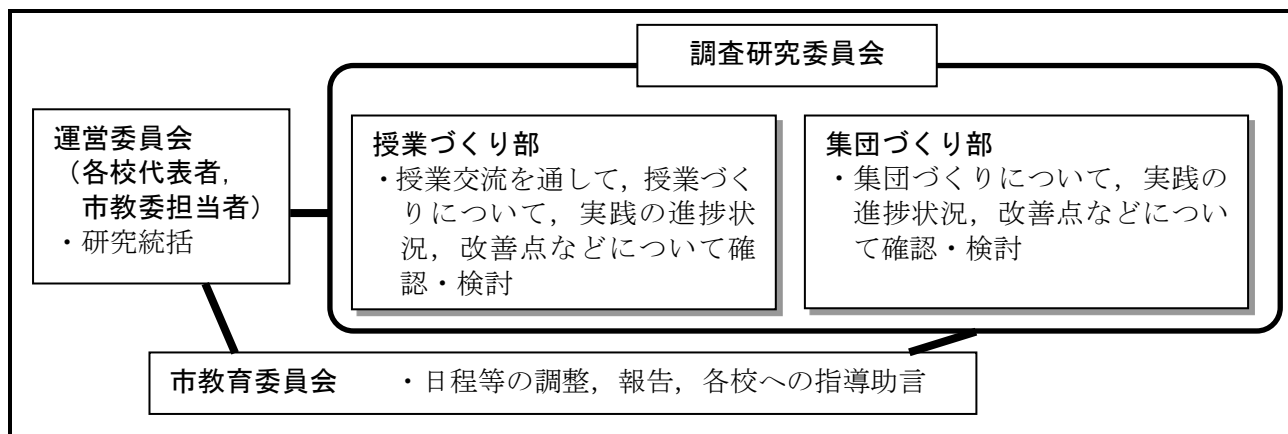
これまでに日新中学校区では、小学校から中学校への円滑な接続を図るため、各校での指導の在り方について交流し、改善を図ってきた。平成 26, 27 年度に指定を受けて実施した「魅力ある学校づくり調査研究事業」においては、児童生徒が安心して学ぶことができる授業づくりや、学校生活全体を通じた「よさ見つけ」を行うことで、学校が楽しいと感じる児童生徒の割合を高めることができた。

本研究においては、これまでの取組を土台としながら、特に授業づくりに焦点を当て、児童生徒が主体的に授業に取り組み、学ぶことが楽しいと感じることができる学習指導の在り方について更

に考えていく。特に、小・中学校の9年間で子供を育てるという視点から、発達段階を考慮しながら、全ての教員が、9年間の学びを見通した授業づくりを行えるような仕組みを構築したいと考える。

このことにより、9年間のどの学年においても授業を楽しいと感じ、主体的に授業に取り組むことができる児童生徒を育てたいと考え、上記の研究主題を設定した。

(3) 研究体制



※校種間連携協議会（調査研究委員会）の構成員

- ・各担当校より・・・校長，教頭，事業担当者 →事業の進捗状況，成果と課題の確認
取組の改善点による具体的な動きの検討
(PDC Aサイクルによる検証)
- ・市教育委員会より・・・学校教育課長，指導主事 →指導，助言
- ・地域より・・・各校1名の学校評議員 →助言

(4) 1年目の主な取組

平成 29 年 度	第1回調査研究委員会・・・事業計画の確認，研究内容の具現化及び担当決定
	第2回調査研究委員会・・・『日新中学校区の授業はこれだ!!』の作成，授業交流の視点の明確化，児童生徒・教師意識調査内容の明確化
	第1回授業づくり研究会・・・日新中学校の授業公開，各校の学校評議員への事業説明
	第1回児童生徒・教師意識調査 実施及び集計まとめ
	第3回調査研究委員会・・・1学期の実践，意識調査のまとめ，2学期以降の研究内容
	第4回調査研究委員会・・・研究構想図の確認，『9年間の学びの変容』の作成 教育課程研究指定校事業研究校視察（敦賀市立角鹿中学校）
	第2回授業づくり研究会・・・東江小学校の授業公開，佐藤調査官講話
	第5回・6回調査研究委員会・・・中間報告書について
	第2回児童生徒・教師意識調査 実施及び集計まとめ
	第7回調査研究委員会・・・2学期の実践，意識調査のまとめ 平成29年度国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業 研究協議会
第3回児童生徒・教師意識調査 実施及び集計まとめ	

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

① 主体的に取り組み，学ぶことが楽しいと感じる授業づくり

- ・一単位時間における授業スタンダード『日新中学校区の授業はこれだ!!』を作成し，その授業像に基づいた『9年間の学びの変容』を明確化することで，小中連携を図る。

- ・児童生徒に主体的に取り組もうとする思いをもたせる指導改善の工夫を行う。
- ② 一人一人が学習者として認められ、安心して授業に向かうことのできる学習集団づくり
 - ・「魅力ある学校づくり」調査研究事業（H26、27年度）で確立させた集団づくりの土台を基に、児童生徒が相互に努力や成長を認め合う活動を継続させる。
- ③ 授業・学習集団づくりにおける児童生徒・教師の意識調査及び結果分析
 - ・年3回の意識調査を実施し、PDCAサイクルで結果分析を研究に生かす。

(2) 具体的な研究活動

① 主体的に取り組む、学ぶことが楽しいと感じる授業づくり

・一単位時間における授業スタンダード『日新中学校区の授業はこれだ!!』の作成

一単位時間の授業展開の中で、主体的に取り組む児童生徒の学びの姿を明らかにし、そのための教師の手立てについて考えた。校区の各校が行っていた授業スタンダードを基に、校区のどの教師もが同じ方向性で授業を展開することができるようにした。

導入
<p>◆「はっきりさせたい」「調べてみたい」思いを持ち、課題を見付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解決したくなるような、場面の提示を工夫し、問題解決への関心・意欲を高める。 ・既習内容の振り返りや学習の流れから、解決したいことを引き出したり明示したりして、課題を明確にする。 <p style="text-align: right;">◆は、児童生徒の学びの姿 ・は、教師の手立て</p>

【『日新中学校区の授業はこれだ!!』一部抜粋】

・主体的に取り組もうとする思いをもたせる指導改善の工夫

『日新中学校区の授業はこれだ!!』に基づいて実践した授業の中で、児童生徒が主体的に取り組む姿を生み出すための指導の手立ての工夫を行った。

・上記の目指す授業像に基づいた『9年間の学びの変容』の明確化

学年区分	導入	展開	終末
小1年	<p>◆教師が提示する物をしっかり見て理解し、どんな学習をするのかに興味もったり予想したりする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を用いた問題提示によって、児童の関心・意欲を高め、視覚的に問題場面を捉えさせる。 ・フラッシュカードで、既習内容の振り返りを行い、課題を引き出す。 	<p>◆使えそうな情報を見つけ、自分で考えたり、操作したりする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをつくる時間を確保し、教科書の考えやキーワードを利用させる。 ・自分の考えをより明確にするために、ペア交流で、仲間に関わって自分の考えを話す場を位置づける。 	<p>◆児童が自力でできた、分かったという思いで、教師に見せたり聞いたりする姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時学んだ内容の定着を図るために、教師による見届けの場を位置づける。 ・学んだことを振り返り、一人で問題ができることを確かめる場を位置づける。
小2、3年	<p>◆児童自らの、「なぜ?」「どうしたら?」「どうしたら?」という思考によるつぶやきや発言から課題を生み出す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習内容を振り返り、「解決したい」思いを引き出すために、「ズレ」を明確にする。 	<p>◆全体交流が、考えや意見の羅列に始終せず、本時の課題解決に向かう姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な考えが出た時点で、確実にねらいに向かわせるための発問や問い返しをする。 ・ハンドサインで自分の考えをはっきりさせ、賛成、反対の立場から話をする場を位置づける。 	<p>◆キーワードをもとに、課題に対するまとめを書く姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キーワード」が児童にもわかるよう、色のチョークを使って板書する。それらの言葉を使って書けばよいと指導する。

【『9年間の学びの変容・1学期』一部抜粋】

『日新中学校区の授業はこれだ!!』の授業展開に照らし合わせた、学年区分ごとの学びの姿を一覧にした。各校の授業実践から、9年間の発達段階に応じて、主体的に取り組む児童生徒のより具体的な目指す姿や考慮すべきこと、授業改善について整理した。

- ② 一人一人が学習者として認められ、安心して授業に向かうことのできる学習集団づくり
 - ・児童生徒が相互に努力や成長を認め合う活動の充実

全ての学校で「よき見つけ（よいこと見つけ）」を継続して行った。児童会・生徒会・教師から児童生徒のよい姿を紹介することで、価値付け方の手本を示した。

- ③ 授業・学習集団づくりにおける児童生徒・教師の意識調査及び結果分析
 - ・年3回の意識調査の実施と分析

児童生徒が主体的に授業に取り組み、授業を楽しんでいるかを把握するために、小学校4年生以上の学年で意識調査を行った。「授業が楽しいですか」「楽しいと感じる教科」「楽しいと思う理由」について尋ね、児童生徒がどんなところで学ぶことが楽しいと感じているのかを把握した。そのことを、児童生徒が主体的に授業に取り組むことができる手立ての工夫に生かした。

また、児童生徒の意識調査と同時に教師の意識調査を実施した。教師には、授業づくりについて「主体的に取り組む児童生徒の姿とは、どのような姿か」「児童生徒が主体的に授業に臨んでいるかどうか」と「そう考える理由」、さらに学習集団づくりについて「児童生徒が安心して授業に臨んでいるか」と「そう捉えた理由」を尋ねた。

教師の意識調査結果を集約し、授業スタンダードである『日新中学校区の授業はこれだ!!』に反映させ、更新・周知するとともに、PDCAサイクルの構築に役立てた。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 小中各校の授業スタンダードを基に『日新中学校区の授業はこれだ!!』を作成するに当たって、9年間の学びの変容（主体的に取り組む児童生徒の目指す姿や発達段階に応じた指導方法など）が明らかになり、共通の方向性をもって授業実践をしていくことにつながった。
- 全ての学校で「よさ見つけ」を継続することで、日常生活の中で互いに認め合う雰囲気が定着した。話す相手を大切にして「聞く」、聞いている全ての相手に伝わるように「話す」姿に、認め合いの高まりが見られた。
- 児童生徒・教師の意識調査結果から、現在の授業のよさや改善点が明らかになり、日新中学校区における「授業スタンダード」として目指す授業像が明確になった。
- 『日新中学校区の授業はこれだ!!』を全職員の共通理解のもと、児童生徒の発達段階や各教科の本質を踏まえた学びの変容を具体的に想起し、すり合わせることで、学年区分ごとの目指す姿の違いをはっきりさせ、系統立ててまとめる必要がある。さらに、単位時間の授業での学びに、問題解決の流れを取り入れていく。
- 「よさ見つけ」は継続しているが、授業の中での学びに対する価値付け・認め合いが少ない。児童生徒が主体的に取り組もうとする元となる、自己有用感を感じさせる具体的な認め合いを促していく。
- 児童生徒・教師の意識調査について、同じ設問を繰り返すことによる形式化を危惧している。授業改善に伴い、設問内容の更新、実施時期の変更を考慮していく。

4 今後の取組

- ・『日新中学校区の授業はこれだ!!』を日新中学校3年生の姿として全職員で共通理解し、それに基づいた小中での授業実践交流を積極的に行う。児童生徒の発達段階や教科の本質を踏まえた学びの変容を具体的に想起し、実践を基に授業改善を重ね、『9年間の学びの変容』を時系列で構成することで、9年間のゴールの姿を目指す実践を積み重ねる。
- ・授業の中で、自己有用感を感じることでできる教師の価値付けを推進する。学びのよさや深まりを実感できるような具体的な価値付けを行うことで、児童生徒が自信や喜びを感じて主体的に取り組もうとする姿につながると考える。また、終末には、児童生徒相互による価値付け・認め合いを含んだ振り返りができるよう育てていく。
- ・授業改善により、児童生徒の意識にどのような変容があったかを今後も調査し、児童生徒が一層主体的に取り組むことができるように、PDCAサイクルで取り組んでいく。